

日中EPR研究者交流プラットフォーム第1回会合

2013/06/29 北京 精華大学

製品群特性とEPR政策への適合性に関する問題提起

神戸大学大学院経済学研究科
教授 石川雅紀

EPRが有効に働くメカニズム

1. 内部化
2. 環境配慮設計 (DfE)
3. 準最適解からの脱出
 - > 岡敏弘の指摘（岡等、2010）
4. 望ましい廃棄物管理
 - > 細田衛士の指摘（細田、2010）

岡敏弘等(2010)：岡敏弘・小谷めぐみ・山口光恒、収穫逦増下の環境政策としての
拡大生産者責任—家電リサイクル法を例に、拡大生産者責任の環境経済学
(昭和堂) 2010 177-202

細田衛士(2010)：細田衛士、拡大生産者責任の経済学的基礎、拡大生産者責任の経
済学 (昭和堂) 2010 142-165

内部化が有効である製品群特性

1. ごみ処理プロセスでの外部不経済が大きい
 - > 処理コストが高い（処理費税負担の場合）
 - > 最終処分量が多い（新規処分場立地）
 - > 不適切な処理がされている
2. 価格弾力性が大きい
 - > 奢侈財

環境配慮設計 (DfE) が有効である製品群特性

1. 潜在的技術ポテンシャルが大きい

—> 新しい製品群

—> 過去に例がない

(容り法施行時期のプラスチックMR)

2. 設計の自由度が大きい

—> 複雑な製品

—> 家電製品 (分解容易性の向上)

準最適解からの脱出が有効である製品群特性

1. 複数均衡が存在する

—> 非線形性が強い

2. 明らかに有意な解が存在する

—> 技術的・社会的ロックイン状況

—> リターナブルボトル (?)

望ましい廃棄物管理が有効である製品群特性

1. ごみ処理プロセスの外部不経済が大きい
 - 一>処理コストが高い（処理費税負担の場合）
 - 一>最終処分量が大きい（新規処分場立地）
 - 一>不適切な処理がされている
2. 公共による管理より企業による管理が効率的
 - 一>リバースロジスティックスの可能性
 - 一>販売チャンネルの活用可能性

EPRの周辺のシステム

食品リサイクル法における再生利用事業計画認定制度

リサイクルループ

顔の見えるリサイクル

排出者（主に外食産業，食品小売業）が収集・再資源化
農業者と共同で，食品廃棄物を再資源化する計画を作成し
認定を受ける。

収集過程で廃棄物清掃法の規制が緩和される。

Government

Applicaiton of recycling plan

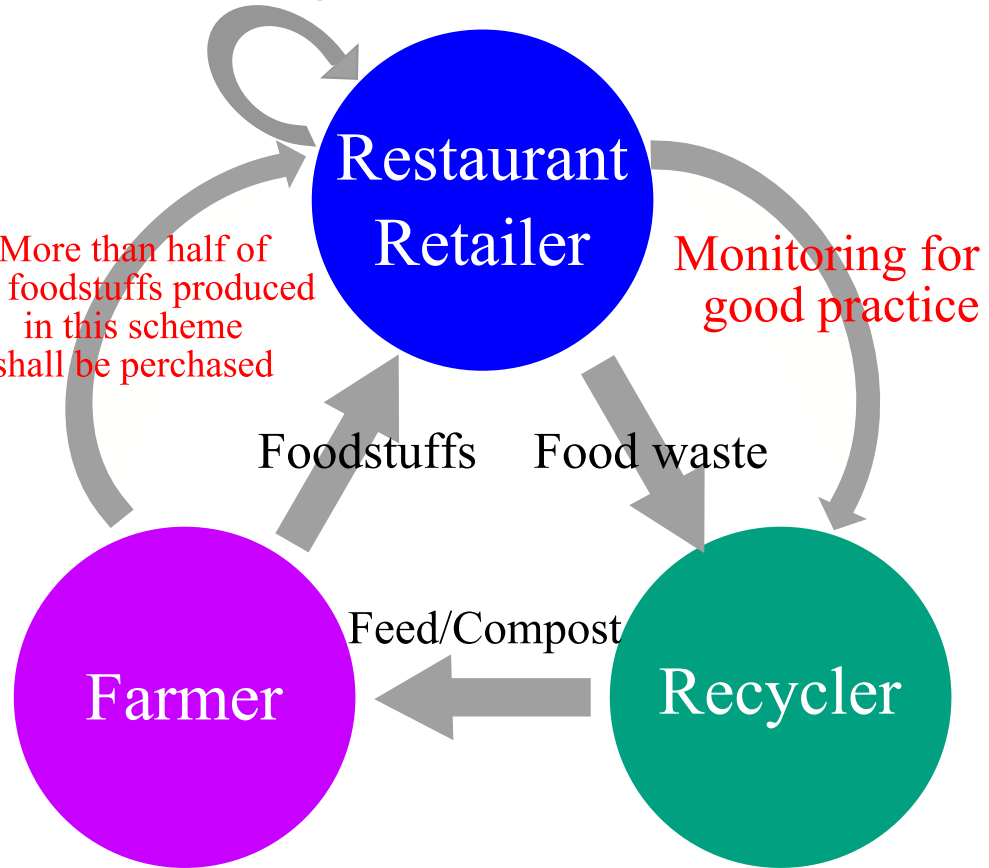
Ease of regislation on waste transport if approved

SellWYS scheme

Self monitoring incentive

More than half of the foodstuffs produced in this scheme shall be purchased

Monitoring for good practice



Foodstuffs

Food waste

Feed/Compost

Farmer

Restaurant
Retailer

Recycler